

夏なつ

の星座解説せいざかいせつ



じりじりと照りつける太陽が西に沈み、
頭の上に広がるのは満天の星空。
寝苦しい夜も、
空にきらめいたくさんの星々を眺めていれば、
少しは暑さを忘れられそうです。



a
アルビレオ



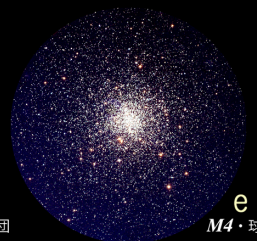
b
M8・干潟星雲



c
M20・三裂星雲



d
M7・散開星団



e
M4・球状星団

じりじりと照りつける太陽が西に沈み、頭の上に広がるのは満天の星空。

寝苦しい夜も、空にきらめくたくさんの星々を眺めていれば、少しは暑さを忘れられそうです。

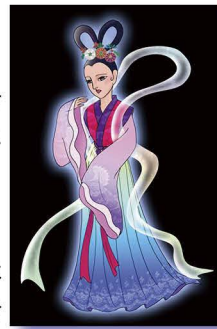
夏の三角からみつけてみましょう

夏の夜、空を見上げると、まず目につくのが、3つの明るい星をつないでできる、大きな三角形。空の暗いところはもちろん、周りが明るい街の中でも、この三角形は簡単に見つけることができます。この夏の三角から夏の星座をいくつか探していきましょう。

おりひめ星、彦星、天の川 ～ベガ、アルタイル、天の川～



夏の三角の星の中で一番明るい星は、こと座のベガ。こと座は西洋の豎琴をかたどった、ちいさな星座です。ベガは、日本では昔から、七夕のおりひめ星として親しまれてきました。一年に一度、七月七日の夜にだけ恋人に会えるという、七夕伝説の織り姫です。彦星の方は三角をつくる星、アルタイルです。この彦星と、織り姫の間に流れているのが天の川。星がよく見えるところに行くと、ぼうっとした雲のようなものが頭の上から地面へ向かって流れているのがわかります。織り姫と彦星は、お話のとおり、天の川の両岸にわかれわかれになっているのです。

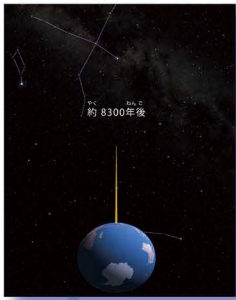


はくちょう座 ～北極星がデネブに変わる?～

夏の三角の3つ目の星は、はくちょう座のデネブ。デネブはおしり、とかしっぽ、という意味で、はくちょうのしっぽの部分に輝く星。天の川の中に、デネブを含む5つの星で作られた大きな十字架の形に、羽を広げて飛ぶはくちょうの姿をあてはめたのが、はくちょう座です。実はデネブは、遠い将来北の空で

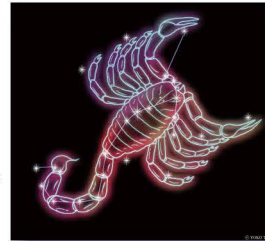


「北極星」として輝く星となるのです。地球は一日一回、自転しています。この自転の軸をまっすぐのばした方向にある星が、一年中、つねに北を指している「北極星」と呼ばれる星。今、北極星として輝いているのは、こぐま座のしっぽの先にある星ですが、地球の自転の軸は、いつまでも同じ方向を指しているのではなく、ゆっくり時間をかけて、ほんのすこしずつずれていっているのです。そこで、8300年後には、軸の向いている方向がこぐま座からはくちょう座にうつり、デネブが北極星になる、というわけなのです。



南の空の星座たち ～さそり座、いて座～

夏の三角から、天の川を伝って南の空、低いところへ目を移してみると、きれいなS字カーブを描く星のならびが見つかります。この星座はさそり座。心臓のところに赤く輝く星の名前は、アンタレス。「火星に対抗するもの」という意味の、「アンチ・アールス」から来ています。そのさそり座の東側にあるのはいて座です。北の空の北斗七星の形に似た、南斗六星とよばれる星のならびです。



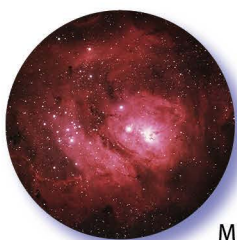
天の川の正体 ～銀河系の中心～

いて座の方向には、私たちの銀河系の中心があります。私たちの太陽系は、銀河系の中心から3万光年ほど離れた場所にあるので、そこから銀河系の内側を見ると、たくさんの星々が重なって、淡い帯状に見えます。それが天の川の正体です。



夏の夜空を彩る様々な天体たち ～M8、M20、M4、M7～

南斗六星のひしゃくの柄の部分から、ちょっとはずれたところに、ぼうっとした光のしみが見えます。M8・干潟星雲です。そのすぐ近くには青と赤のコントラストのきれいなM20・三裂星雲があります。次に、たくさんの星の集まり、星団を見てみましょう。さそりの心臓、アンタレス。そのすぐ横にあるのが球状星団M4です。また、さそりのしっぽの先には、ばらばらとまばらに星が集まった、散開星団M7が見つかります。



M8



M20



M4



M7

天体写真:NOAO/AURA/NSF 語り:山崎和佳奈 脚本:高島規子 CG:NOBO 星座・神話イラスト:塚田洋子

(約15分)